



京都「太秦」の地へ、
愛しいあなたを誘います。

国宝「弥勒菩薩」で有名な「こうりゅうじ廣隆寺」と東映撮影所「映画村」もあります。もし行くとしたら、レトロでユニークなサービス満点の四条大宮発「らんてん嵐電」をご利用なることをお勧めいたします。それにしても、「太」と「秦」で、いったいどうしたら「ウズマサ」と読むことが出来るのでしょうか？その太秦の細い路地にある「いさらえの井戸」と言うものを偶然知りました。名古屋駅の本屋で立読みをしていた時です。生家が浄土真宗のお寺であるノンフィクション作家の澤宮優さんの素敵なエッセイです。彼は基督教に入信しようか、しかし自らの生い立ちとの狭間で苦しんでいました。そんな時、教会の恩師であるS先生が、「澤宮君ね、実は佛教も基督教も同じなんだよ」とお言葉をなげかけられました。そこから「いさらえの井戸」の物語が始まります。

太秦の地を築いたのは、飛鳥時代に中国から渡来した「はた秦」一族でした。廣隆寺も秦氏が7世紀に建立しています。中国での秦氏は、「景教」という教えを信仰していました。景教とは、ローマで基督教の一派、「ネストリウス派」と呼ばれていましたが、その教義が正統とは認められず東方に追放されました。やがて遥か中国の地で「景教」として広まりました。ザビエルが1549年に基督教を日本に初伝来したと教科書で習いましたが、正統な基督教ではないかも知れませんが、秦氏によってその随

分と以前に中国から基督教が伝来されたこととなります。その秦氏が多く居住していた太秦には「いさらえの井戸」が複数あったと言われています。現在は一ヶ所だけ残っています。「いさらえ」とは、「イスラエル」のことだそうです。基督教徒にとって井戸端は特殊な場所と聞きます。そこに縁ある地「イスラエル」を井戸の囲みの石に刻んだ秦氏は、遥か異



国の地で祖国を偲ぶであろう、「信仰」があったのでしょうか。

学生時代、関西大学を退官されたT先生の「哲学」の講義を受けました。先生は、基督教に最も近い日本の宗教は「浄土真宗」だと言われたことが心に残りました。私は立読みをしていてT先生を思い出しました。親鸞聖人あくにんしろうきせつ「悪人正機説」は、イエスの教えの「汝の敵を愛しなさい」と意味は同じであると言っておられたのです。法然門下と秦氏と廣隆寺は、「縁」があります。もし、秦氏から景教の教えを聞いて教えを確立した親鸞聖人であれば、史実でなくても、それは、何とも「微笑ましい」ことでしょう。宗教者が意識するより、その「垣根」など、遥かに低いのかも知れません。

私の御経をとこなえる時の師は、亡き本田美奈子さんの歌声です。白血病と戦いながら最期まで熱唱した彼女の『アメージング・グレース』に涙しました。信仰する「きっかけは」は、おだやかにやさしく、更に「自然の風景」のままが良いはずです。(俊徳丸)